

# 技術の国際展開・国際規格策定に貢献し 重工業を先導する 次世代育成プログラム

工学研究院 教授 中尾 航

理工学府機械・材料・海洋系専攻は、「技術の国際展開・国際規格策定に貢献し重工業を先導する次世代育成プログラム：Program for cultivating next-generation leaders of heavy industries」を文部科学省が応募していた2018年度国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムに申請し、採択されました。このため、2019年10月より博士課程後期3名、博士課程前期3名の国費留学生を毎年受入、育成することになります。

本プログラムは新興国における重工業の振興を先導する人材、および次世代の日本の重工業の国際展開力の向上につながる人材の育成を目的とします。その目的達成のため、今後重工業産業の興隆が予想される新興国（中東欧、南米、東南アジア等諸国）から優秀な人材を集め、特に技術の国際展開および国際規格の策定において中心的役割を果たせる人材へと育てます。

本プログラムの最大の特徴は、本学府がこれまで推進してきたPi-type Engineering degree (PED) プログラムと連携し、企業インターンシップを国費留学生に課すことです。産業界における実務模擬体験を通じて、国費留学生に我が国の重工業産業（自動車 / 鉄鋼 / 造船 / 航空機等）の持つ「生産技術の高さ」を体得させます。さらに、MPBL(Multidisciplinary Problem based learning) 科目も必修科目として取り入れ、日本人学生とチームを組み、社会における今後の技術課題を発見し、解決策を具体的に構築するトレーニングを課し、MPBLを受講する日本人学生にも、日本人目線からの課題だけでなく、母国の社会情勢を踏まえた社会問題を議論することができると考えております。このトレーニングを通じて、国費留学生およびMPBLを受講する日本人学生の今後の研究者・技術者にとって重要となるグローバルなダイバーシティを考慮した課題発見能力を養成します。

産業の中心が第3次産業に移ってきている現状でも重工業の重要性は低下することはありません。とりわけ新興国においては、これまで産業振興の旗手を担ってきた先進国の技術・経験を吸収し、それと同時に各国独自の社会のおよび環境的側面を配慮した産業振興を進めることが必要であります。特に、上記の中東欧、南米、東南アジアは重工業に関して今後の成長が最も見込まれ、かつ本学の過去の実績を土台にできるという意味で、本プログラムの対象地域としてふさわしいと考えております。このため、機械・材料・海洋系専攻は、教員一丸となり、この様な背景をもつ新興国で生まれ育った人材を、本学での留学経験を通じて、母国の重工業界におけるリーダーへと育てることに邁進します。